

広川町立広小学校

建築場所 和歌山県有田郡広川町大字広631番地

建物概要 鉄筋コンクリート造(一部木造) 地上2階 3,358.32㎡

工事概要 新築工事

竣工年月 2024(令和6)年3月

事業者 広川町

設計監理 川建築事務所hana*class設計共同企業体

施工者 中平建設株式会社

（木材活用）

予想津波高さまで(1F)はRC造とした上で、ぬくもりがあり心地よい木の香りを感じられる空間をめざし、2階を木造としました。また、小規模校の良さを活かし、中央に図書コーナーを含むワークスペースを配し、ここからすべての教室がつながるようにしました。このワークスペースには燃えしろ設計により太くなった柱が林立し、さらにルーバーを設置することで紀州材の木目や香りがより感じられ、より一層ぬくもりのある空間となっています。

（防災減災）

昭和33年に旧校舎が建設された頃は学校の周りは高い建物などがなく、津波が発生した際に市民の避難できる場所としての整備もかねていたことから当時では最先端の鉄筋コンクリート3階建ての建物となっていました。広小学校の敷地は津波浸水区域であり、この建替事業においても同じ敷地内に新しく校舎を建てるため、浸水しない高さに重要な教室や管理室等を配置し、また地域の避難場所としても使用できるように整備を行いました。

校舎内には屋内避難スペースや備蓄倉庫を設け、想定外の津波にも耐えうるよう避難ビル相当の強度を確保しました。また建物の周りを取り巻くようにバルコニーを配置することで避難場所を確保し、津波が想定を超えて2階が浸水することも考慮し指定避難所である広八幡宮の海拔より高い位置に一時避難スペースを設けました。

（その他）

学校の空調の熱源にはGHPを採用し、電源が失われた際でも自律運転が可能な災害用の空調設備としました。またガスバルクは災害対応型バルクとし、コンロや炊飯器、発電機などの災害時に必要なガス機器を接続してすぐに使用できるように整備を行いました。

全景



外観 正面



多目的スペース



教室



図書コーナー



屋内プール



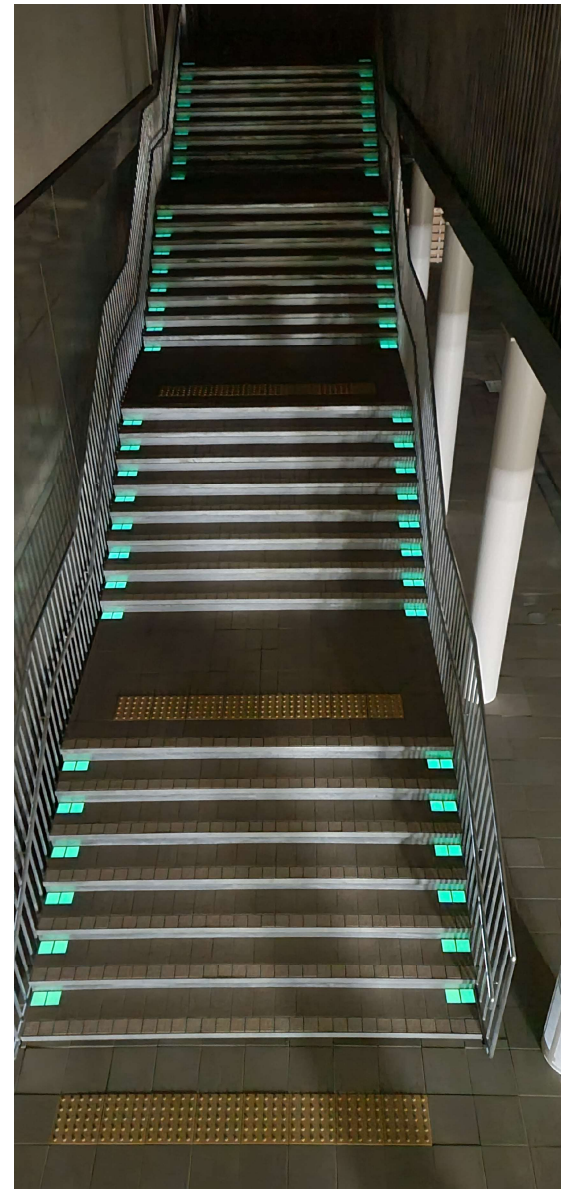
1階 ピロティ



屋外避難階段



大階段 蓄光タイル



鳥瞰



【概要】

□名 称	広川町立広小学校
□所 在 地	和歌山県有田郡広川町大字広 6 3 1 番地
□敷地面積	9, 9 2 2. 2 1 m ²
□建築面積	2, 9 3 0. 3 1 m ²
□延床面積	3, 3 5 8. 3 2 m ²
□構 造	鉄筋コンクリート造一部木造
□階 数	地上 2 階
□軒 高	1 1. 1 1 m
□最高高さ	1 2. 0 1 m
□工 期	令和 4 年 9 月 7 日～令和 6 年 3 月 3 1 日
□設計監理	川建築事務所 hana*class 設計共同企業体
□施工業者	校 舎：中平建設株式会社 旧 校 舎 解 体：大東建設 屋外教育環境：株式会社ワカノ

【事業費】

□基本設計・実施設計費	54,748 千円
□プール等解体撤去工事費	21,681 千円
□工事監理費	17,217 千円
□新築校舎建設工事費	1,596,448 千円
□新校舎備品購入費	11,188 千円
□旧校舎解体撤去工事費	80,454 千円
□屋外環境整備工事費	73,073 千円

【財源】

学校施設環境改善交付金	539,178 千円
緊急防災減災事業債	233,100 千円
過疎対策事業債	866,170 千円
紀州材公共施設木造木質化モデル事業補助金	12,396 千円
一般財源	203,965 千円

和歌山県
PRキャラクター
きいちゃん



《防災機能》

▷浸水対策
屋上避難スペース（TP+13.3m） 約 280 m²
ベランダ避難スペース 約 662 m²

▷停電時の対策
・自立運転式ガス空調機の採用
・大階段には各踏面へ蓄光タイルの埋込（1 2 4 枚）
・蓄電池搭載型の外灯の設置（全 5 灯）

▷断水対策
緊急時浄水装置 1 台
毎時 1. 8 立米の浄水性能

▷備蓄関連

※食料

アルファ米	2 0 0 食
保存レトルト食品	1 0 0 食
米粉クッキー	1 4 4 食
液体ミルク	2 4 本
保存水 5 0 0 m l	6 0 0 本

※その他

毛布	1 0 0 枚
大人用おむつ	1 7 2 枚
簡易トイレ	1 0 0 0 回分

蓄電池搭載型外灯



蓄光タイル



アルファ米



ミルク



レトルト食品



毛布

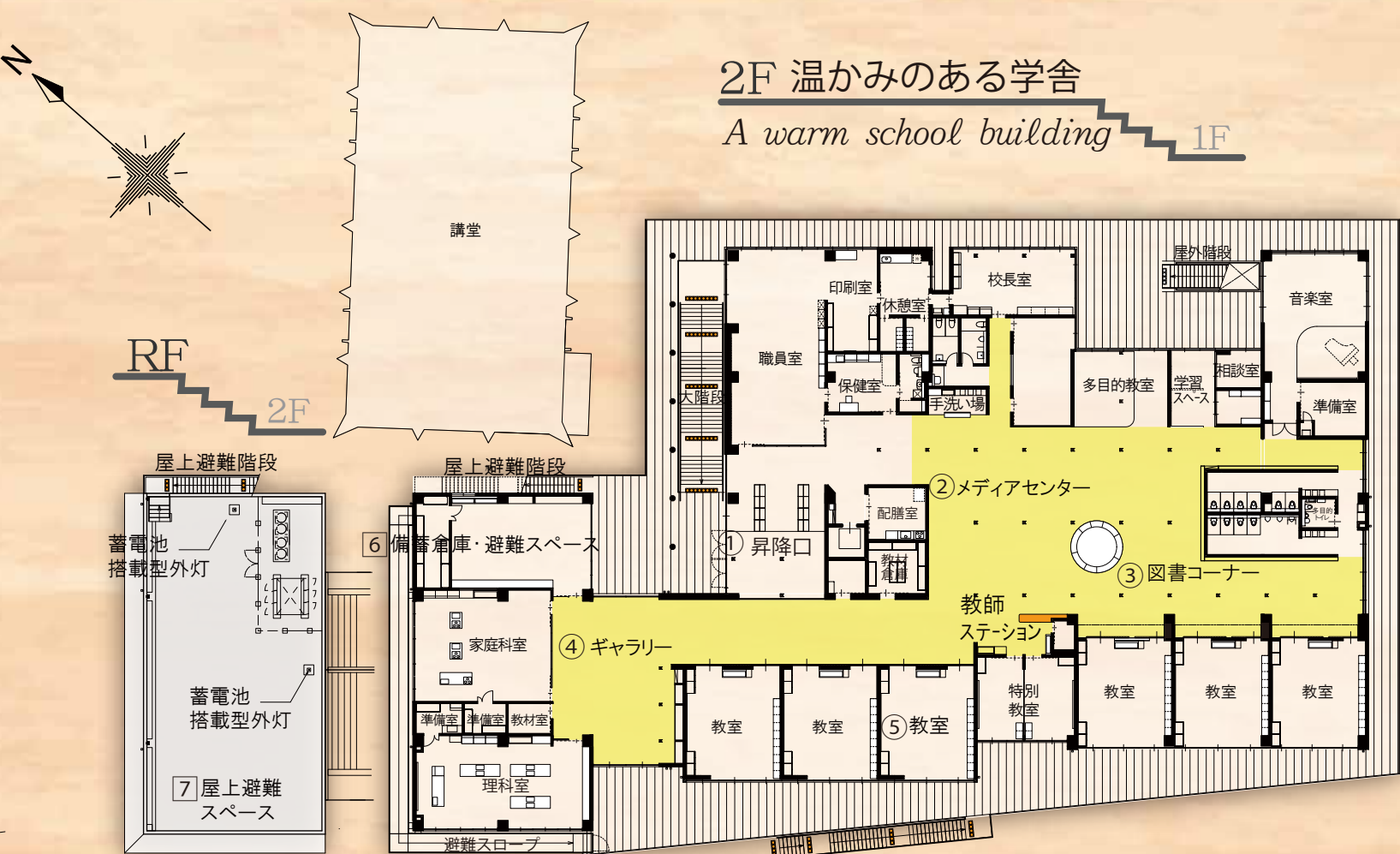
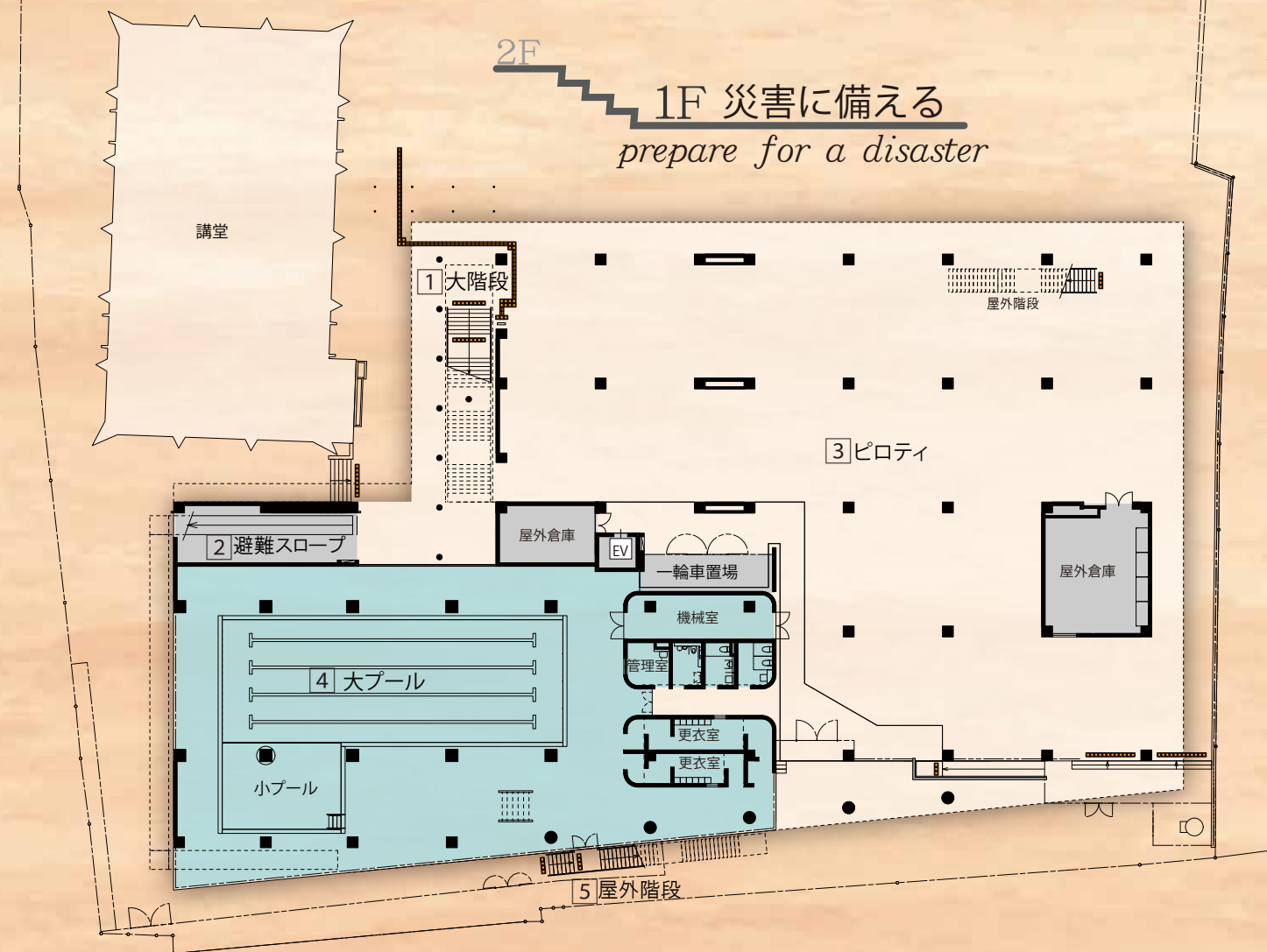


広川町立広小学校竣工



和歌山県広川町





広小学校の周辺は浸水区域であるため、1階に教室などの重要な部屋を配置せず、浸水したとしても、耐えるよう避難ビル相当の構造、安全に避難できる動線の確保、浸水以外の災害も想定し、非常時浄化装置を備えたプール、2階には避難スペースと備蓄倉庫を整備しました。



risk reduction

- 蓄光タイルを埋め込み夜間でも避難することができます
- 2階の避難スペースに到達することができます
- 基準水位より高い天井により構造への影響を最小限にします
- プールの水を浄水して使用することができます
- 教室からより短い距離で避難場所へ移動することができます
- 非常用食料や応急救援物資を備蓄し万が一に備えます
- 万が一想定を超えても避難をすることができます



子どもたちが大半を過ごす部屋は紀州材をふんだんに使用し温かみがあり落ち着いた空間となるよう配慮しました。また、グループワークや個別指導、放課後学習でも集中して学習できるようカーペット敷きの多目的室を配置し、メディアセンターでは図書コーナーや教師ステーションを設け児童と先生の距離を近くにする事で相談しやすく安心して過ごせる学舎としました。

- ① 昇降口
- ② メディアセンター (教師ステーション)
- ③ 図書コーナー
- ④ ギャラリー
- ⑤ 教室

- ## relaxing
- ① 児童、先生の顔が見える昇降口
 - ② ルーバーを施した温かく落ち着いたメディアセンターと教師ステーション
 - ③ 取り出しやすく見やすい大型書架
 - ④ 小集会や小活動ができるギャラリー
 - ⑤ 開放感のある温かな教室

広小学校の周辺は浸水区域であるため、1階に教室などの重要な部屋を配置せず、浸水したとしても、耐えるよう避難ビル相当の構造、安全に避難できる動線の確保、浸水以外の災害も想定し、非常時浄化装置を備えたプール、2階には避難スペースと備蓄倉庫を整備しました。子どもたちが大半を過ごす部屋は紀州材をふんだんに使用し温かみがあり落ち着いた空間となるよう配慮しました。また、グループワークや個別指導、放課後学習でも集中して学習できるようカーペット敷きの多目的室を配置し、メディアセンターでは図書コーナーや教師ステーションを設け児童と先生の距離を近くにすることで相談しやすく安心して過ごせる学舎としました。

地震、津波、洪水などの災害に対し強い校舎、最新の設備を持った教室、ほとんどの機能をワンフロアに集め児童のふれあいがたくさんある学校となっています。強度的にも意匠的にも良質である紀州材を構造材や化粧材にふんだんに使用することで、紀州材を目で見て、手で触れ、香りを楽しめます。

担当者より

紀州材が目の前に広がる開放感のある玄関、図書コーナーが校舎の中心となるワンフロア構成の各教室配置など、校舎を利用する児童や職員にとって、非常に満足度の高い校舎となりました。現在進められている学校のICT化においても、全教室がプロジェクター方の電子黒板となっていることもあり、タブレットを使った授業との相性がとても良く、さらに、ピロティ形式となっている校舎のおかげで、1階部分が広大な日陰スペースとなり、昨今問題となっている熱中症対策を兼ねた校舎となっています。

広小学校長 御前政貴より